

人育て

～人として生きていく為のすべては、遊びから～



自然豊かな園庭

子ども達
一人ひとりを大切に

四季折々に変化する自然を肌で感じながら、豊かな感性・丈夫な身体が育ちます。

伸びようとする姿を援助
自らが育つ

～遊びがもたらすもの～

- ・人の話を聴く力、話す力
- ・集中力
- ・ルールを理解して守る力
- ・良い人間関係を作る力
- ・五感を十分使って感覚、感性を豊かにし、感じ取る力



食べることは生きること

「食」を通して、生命の大切さや感謝の心、生きる力を育む。



日本の気候風土に合った
和食中心献立。



すくすくが 大切にしていること



豊かに恵まれた自然の中で、伸び伸びと遊べる空間を。

●大きな楠の木のもと、十分に身体を動かして遊べる遊具が揃っています。

子どもの発達に合わせて遊具を変化させることで、チャレンジする気持ちや、身体能力を高めていくようにしています。

保育室は生活の場

●すくすくでは、子どもが主体的に生活しやすいようにという思いで、保育室の環境を作っています。園で使う机や椅子は子どもの体に合った大きさや高さにすることで、体の重心が安定して遊びや食事に集中することができます。おもちゃも自分で選んで遊べるように、棚に配置をしています。おもちゃを選ぶ基準としては、子どもの豊かな想像力を多様な形で表現できるもの、そして木のぬくもりのあるもの手作りのおもちゃなどにこだわりをもって選んでいます。家具やおもちゃなど同じものが同じところにあることで、見通しをもって落ち着いて生活できます。そして、使ったものは元の場所に返すということが、習慣として自然と身に付くようになっていきます。何度遊んでも飽きないおもちゃのよさを伝えていきたいと考えています。

また保育室は、子どもたちが入ってすぐにどこでどんな遊びができるかがわかるような配置となっています。遊びたいという意欲をわかせる、主体的に行動できるようになることを目指しているからです。そして落ち着いて遊べる空間（コーナー）を準備することで、自分で遊びを選び、その遊びにじっくり取り組むことができます。

●保育室には刺激の強いテレビは置かないようにしています。

日本の乳幼児期は、欧米に比べて3倍もテレビを見る時間が多いそうです。それが影響してか、言葉が遅れている、視線を合わせられない、友だちと遊べないなど、発達につまずきのある乳幼児が増えてきているようです。その原因がテレビやビデオを長時間見せている、授乳時や離乳食を与えている時にテレビをつけている傾向が多いということが分かったようです。

子どもたちが主体的に過ごせるよう、遊びや生活を中心とした部屋作りを大切にしたいと思います。

